



今回の発見！

国指定史跡 旧相模川橋脚

今回は、今年の春に保存整備が終了し、公開を再開した下町屋の史跡、旧相模川橋脚について、整備方法や見どころをご紹介します。

今から85年前の大正12（1923）年に起きた関東大震災で出現したこの遺跡は、歴史学者の沼田頼輔博士によって鎌倉時代に源頼朝の重臣、相模重成が相模川に架けた橋の遺跡であると考証されました。大正15（1926）年に国の史跡に指定され保存されてきましたが、一部に傷みが生じたため、平成13年より保存整備を進めてきました。

【生涯学習課文化財保護担当】

出現当時の橋脚



初期保存池



整備された現在の橋脚

初期保存池と地盤により出現した橋脚の復元

現在の池は、大正時代に整備された初期保存池の平面形を復元しており、池の縁には、発掘調査で確認された護岸遺構を再現した木柵を設置しています。

周囲の緑地は、掘みガこれ以上進まないように地下2m、60cmのところで湿度を保つ状態で密閉保存されています。その保存している上部に精巧なシフト力を設置し、地盤での出現状態を正確に復元しています。



サインモニュメント

史跡の所在を示すために橋脚の実物大複製を設置しています。壁面の模様は地盤による液状化現象を表現しています。

図説一冊



遺跡解説模型

遺跡の理解を深めるために、地形模型や地図を配置しました。また、防災マップも表示し、出現の原因となった地震による液状化現象への注意も喚起しています。



遺構の表示

調査で新たに発見された遺構に関連する中世土留め遺構の位置を表示しています。



史跡説明板

史跡の概要と、保存整備に伴って実施した発掘調査の成果を、写真や図面で説明しています。